

立命館宇治中学校・高等学校

社会貢献とイノベーションの志で 問題解決に挑む人材の育成

【構想の概要】

「宇治・京都・世界をつなぐグローバルアントレプレナーシップの研究」の統一テーマに基づき「世界の環境・社会問題を解決するソーシャル・ビジネス」「グローバル企業におけるCSR」「宇治・京都の文化を世界に発信するビジネス」の3テーマを英語で追求する課題研究科目「Global Leadership Studies」を研究開発し、従来の本校のカリキュラムの一層の強化に繋げる。

< IM コース3つのステップ>

IM コースでは①充実した留学、②イマージョン授業、③課題解決型学習の3つを柱としたカリキュラム構成になっている。特に③の課題解決型学習がSGHの研究対象であり、他の2本の柱の効果をも高めることにも繋がる。

1st STEP 留学準備

●留学準備基礎講座
留学に行く目的を明確化し、動機を更に高めるための講座です。現地で求められる留学生像についても理解を深めます。



2nd STEP 充実した留学

●北半球・南半球
カナダ、ニュージーランド、オーストラリアの3か国で、1人1校を原則とし、現地校へ留学をします。そのため、日常生活はもちろん授業もすべて英語づけです。1年間お世話になるホストファミリーとは帰国しても一生のつきあひになります。部活動やサークルを通して多様なバックグラウンドを持った友人関係が築けます。




3rd STEP 留学後の応用と発展

●イマージョン授業 (Immersion Course)
日本語以外の教科を英語で学び、留学で培った英語力を更に伸ばしていきます。

●留学報告会
留学の成果を振り返り、その後の成長につなげる為にも、応募してくれた保護者、教職員、後輩に向けた報告会を実施します。

●その他の校外での活動
校外で実施される英語に関連する大会や海外派遣プログラムに参加し、日頃の成果を試します。




< Global Leadership Studies の流れ>

1st Stage 再発見 日本文化
留学を前に、まずは自国を見つめ直す。
日本を代表する歴史・文化の集積都市である宇治を舞台に日本文化再発見をテーマとして学習をします。自国について海外に譲れる知識とマインドを身につけ、留学します。

- 留学生としての自覚と目的意識
- 他国と相手国への理解と敬意
- 英語による調査・分析・発信力

2nd Stage リーダーシップ
魅力溢れる日本のフロントランナーと出会い、自分の使命と志を見つける。
魅力溢れる人間性を持ち、グローバル社会に貢献する事業を手掛ける講師の方々から、留学から帰国したての生徒は多くの刺激を受けます。この講座を通して、自身の将来について考え、使命や志を見つけます。

- 世界で起きていることへの興味と関心
- 自分らしく生きるためのマインドセット
- グローバルリーダーシップへの深い理解

3rd Stage グローバル課題研究
グローバル社会が抱える諸課題に対して、自ら解決策を提案し実現していく。
地元宇治やタイ・ラオスをフィールドとした課題解決型学習を行います。物事を生み出す力や精神(アントレプレナーシップ)を身につけます。

- 社会の課題を捉える力
- 自分の興味と社会の課題を結びつける力
- 課題を解決へと導く思考力・行動力

< IM コースのカリキュラム>

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
高1	保健	体育	国語総合		現代社会		数学I	数学A	生物基礎	地学基礎	芸術I	C英語I	英語表現I	家庭基礎	IM総合	GLS	HR																
高2	保健	体育	日本語I		世界史B	日本史A	数学総合A	化学基礎	芸術I	社会と情報	リーディング	ライティング	PDEnglish	TOK	IM総合	GLS	HR																
高3	体育	日本語II		世界史B	数学総合B	Natural Science	プレゼン	エッセイ	リーディング	ライティング	第二外国語	TOK	IM総合	GLS	HR																		

立命館宇治高等学校概要

IB（国際バカロレア）、IM、IG コースの3コースからなる本校は、帰国生、スポーツ推薦生徒、全国から入学する寮生、外国籍生徒など多様なバックグラウンドを持つ生徒が集い、約40人の外国人教員が教鞭をとる多様性に溢れる学校である。

各コースそれぞれ特徴がある中、多様化するグローバル社会で活躍し、確かな学力の上に異文化を理解できる柔軟な思考力をそなえた生徒の育成を目指している。また、立命館学園の附属校としての優位性を活かし、中高大が連携したプログラムが充実しており、社会に出た時を見据え、主体的にキャリア形成をするための授業を科目として展開している。また、探究型の学力形成を迫るため、今年度よりカリキュラムを改定しコア科目を設定し学習へ主体的、さらには発展的に取り組む生徒の育成を目指している。

IM コース概要

SGHの研究ターゲットであるこのコースでは日々成長を重ね、社会に貢献できる力を身につけた真の国際人の育成を目指し、3つの柱となる教育プログラムを展開している。①充実した留学：1学年約80人の生徒が高校1年時に、3か国1人1校の留学先に1年間の留学をする。②英語によるイマージョン教育：入学時から一部の授業を英語で行い、帰国後は留学中に身につけた英語力の維持と向上を目的として、イマージョン授業を実施している。③課題解決型学習：他教科と連携した探究科目として総合科目にGLS（グローバルリーダーシップスタディーズ）を開講している。

グローバルリーダースタディーズ

3年間の流れ

前項でも触れたように、SGHのターゲットコースであるIMコースは①充実した留学②イマージョン授業③課題解決型学習の3つの柱からなっている。SGH事業ではこの中の3本目の柱である③課題解決学習に焦点を当てて取り組んできた。この課題解決型学習に取り組むにあたり、グローバルリーダーシップスタディーズ（GLS）を学校設定科目として置いた。このGLSを3年間を通して学

ぶことで、IMコースが従来から行ってきた留学とイマージョン授業をさらに充実させたものになっている。

GLS第1ステージでは「Re-Discover yourself」をスローガンに自分を知るため、日本文化再発見講座を行っている。留学前に日本文化を学び、現地での文化交流を行う狙いになっている。

GLS第2ステージでは「Expand your horizons」をスローガンに社会を知るための活動を行っている。具体的には社会の第1戦で活躍する方々を招いてのグローバルリーダーシップ講座と香港研修旅行である。留学先で広げた視野をさらに身近なものにしていく。

GLS第3ステージではこれらの活動の総まとめとして、「Make a difference in the world and yourself」をスローガンにグローバル課題研究を行う。高校生が興味をもつ社会課題を選択し、自分たちができることを考え、実行していく取り組みである。社会課題は地元宇治もしくはSGH認定以降年間3回程度の交流を続けているラオスをフィールドに考えていく。

これらの課題解決型学習の学びを経て、生徒達は留学を充実したものにすると同時に留学で得た学びを生かすことに繋がっている。

GLS 第3ステージの年間計画

GLSのうち特に力を入れて取り組んでいるのは第3ステージである。以下に年間計画を示す。

2年時	9月～3月 マインド 醸成時期	グローバルリーダーシップ講座 香港研修旅行 起業家精神と社会貢献の マインド醸成
3年時	4月～6月 テーマ決定の 時期	社会課題の事例・現状の調査 淡路島へ地方創生FW マイプロジェクトシート作成 興味の近い生徒同士で グルーピング テーマごとにフィールド ワーク テーマの決定・解決策の提案
	5月～9月 PDCA サイクル 1巡目	中間発表 アクションプラン発表 アクション実施期間 (夏季休業中を活用) アクションの評価

10月～12月 PDCA サイクル 2巡目	アクション検討 2回目のアクション実施期間 2回目のアクション評価
1月～2月	SGH 研究発表会 最終論文提出

GLS 第3ステージ実践例

GLS 第3ステージでは実際に社会課題に対する解決策を提案し、実施することを目標としている。SGH 指定の5年間で継続して実施されてきたプロジェクトを2つ紹介する。

<ラオスコffeeプロジェクト>

ラオス農村部では安定した収入を得るためにそれぞれの村の特産品を作る運動が起こっている。ラオス南部ボラベン高原にある村では有機栽培で品質の高いコーヒーを栽培しており、これを地元宇治のコーヒー店にて委託販売。ラオスコffeeの魅力伝えると同時に利益を全額教育支援金として寄付している。

<Wakka プロジェクト>

「教育でこそ世界が変わる」をモットーに、開発途上国で就学が困難な現地生徒に対する就学支援のために行うチャリティーイベントである。IM コースがカナダ・オーストラリア・ニュージーランドに持つ広範囲なネットワークを活かし、留学中の生徒が世界で同じ目標を持ったチャリティーイベントを実施し、共感の輪を広げる。3年生が企画を担当し、留学中の2年生が各国でチャリティーを実施する。また地元宇治のお祭りでもベークセールを実施し、昨年度は日本円にして23万円の寄付を集め、全額を教育支援金として寄付した。

以上の2つの取り組み以外にも、宇治市での観光客を対象とした足湯。日本のファッションと海外のファッションの融合を発信するファッションショー。宇治の夜空にランタンを飛ばす地域のお祭りであるスカイランタン祭りなどを実施してきた。

GLS 第3ステージの成果

GLS 第3ステージの効果を測定するために、ルーブリック評価を行った。このルーブリック評価は「自ら課題を見つけて、解決に向けて動いていく力」を評価するように設定されており、今後の社会

人に必須の能力の測定ができると考えられている。今回、GLS 第3ステージにおいて、生徒達が自らプロジェクトを計画し、取り組む中でどのような力が身に付いたのかを測定した。

それぞれの評価項目について、設問と5段階の評価項目をつけ、自己評価形式で実施し、平均点を算出した。アンケートはGLS 第3ステージ導入フェーズが完了した2年次1月をPreテストとして、すべてのプログラムを終了した3年次1月をPostテストとして実施した。結果を最終頁にレーダーチャートで示す。

2年次と3年次の変化率を算出し、変化率の大きかったものから順に10項目を抽出したところ以下のようになった。()内は増加率。

- | | |
|-----|--------------------|
| 1位 | 文書作成力 (140%) |
| 2位 | 情報収集の仮説構築 (128%) |
| 3位 | 自ら学ぶスタンス (126%) |
| 4位 | 論理的思考力・課題分析 (124%) |
| 6位 | 知識の応用・創造的思考 (122%) |
| 8位 | 自らの役割の達成 (121%) |
| 9位 | 情報収集の実施 (120%) |
| 10位 | 仮説の構築 (119%) |

これらの中で、「自ら学ぶスタンス」「仮説の構築」「論理的思考」「知識の応用」「情報収集の実施」などの力は全て、「なぜ？」を問い、自ら課題を発見し、0から1を生み出すために必要なマインド・スキルであり、GLS 第3ステージを通して生徒達に身につけてもらいたいと期待していたものである。

SGH 取り組みの成果のまとめ

SGHの取り組みは従来の留学+イマージョン授業という2本柱に3本目の柱である課題解決型学習を加えることで、英語力の育成に重点をおいたカリキュラムから真の国際人の育成を目的としたカリキュラムへの変容することができたと考える。課題解決型学習の導入は生徒に広い視野・社会貢献のマインド・新しいものを生み出すスキルを与えた。

SGH終了後はいくつかのプログラムは金銭的な問題から次年度以降の見直しが必要だが、課題解決型学習の枠組みとノウハウは残る。生徒だけでなく、教員のスキルの向上が見られた。

SGH 校に限らず、同様の取り組みを行なっている学校は日本各地に存在している。これらの学校が繋がり、高校生同士が会うことで教育に新しい風が巻き起こると考える。高校生 SR サミット FOCUS のような取り組みを通して、SGH 終了後も本校だけでなく、日本全体の教育の向上に努めたい。

成果普及の取り組み

SGH の後継企画として『高校生 SR サミット～ FOCUS ～』（Forum on Creating Unified Societies）を立命館アジア太平洋大学（APU）にて今夏開催する。大学におけるUSR（University Social Responsibility）

のように、高校生も社会的責任を意識するために高校生 SR（High School Social Responsibility）

ty）を普及させる取り組みにしたい。この取り組みでは、参加校を SGH 校等に限定せず、国際貢献や地域貢献など多種多様な取り組み実践をする生徒が、互いの意見を交換し、そこから持続可能なプロジェクトへ発展させることを目指す。生徒が主体となり互いの実践を共有し学び高め合いながら社会の一員としてどのように社会貢献できるか考える機会としたい。APU の国際学生がファシリテーターとして加わり、議論を活発化させる。また、企業が各プロジェクトを多角的に評価する立場として参加することで産学協同プロジェクトと位置付ける。

この高校生 SR サミット FOCUS の開催を通して、SGH 終了後も SGH のみならず日本の学校が繋がり、高校生同士が会うことで、高校生 SR（High School Social Responsibility）を根付かせ、教育現場に新しい風を興したい。

第3ステージの効果（2年次・3年次の比較）
＜生徒の自己評価＞
— Pre（2年次） — Post（3年次）

